

開催日 2007年11月15日(木)
場 所 大和証券SMBC本社 6階ホール
(丸の内トラストタワーN館)

PASSION
FOR THE
BEST

大和証券グループ 2007年度 秋季会社説明会

株式会社大和証券グループ本社
執行役社長 鈴木 茂晴

本資料は、2007年度中間期の業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2007年11月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

目次

2007年度上期の業績概要	3
2007年度下期の方針	6
リテール	9
ホールセール・投資	20
アセットマネジメント	25
資本政策	27



2007年度上期の業績概要



連結決算の概要

(単位:百万円)	FY2007	FY2006	対'06.1H 増減率	FY2007		対'07.1Q 増減率	FY2006 累計
	1H	1H		2Q	1Q		
営業収益	465,695	419,391	11.0%	211,712	253,982	-16.6%	917,307
純営業収益	255,632	241,343	5.9%	111,563	144,068	-22.6%	526,764
販売費・一般管理費	185,280	161,522	14.7%	91,660	93,619	-2.1%	340,372
経常利益	75,296	86,451	-12.9%	21,204	54,092	-60.8%	195,415
純利益	42,074	40,127	4.9%	14,739	27,335	-46.1%	92,724
総資産	16,009,537	14,300,872		16,009,537	15,062,647		14,411,265
純資産	1,194,358	1,142,402		1,194,358	1,231,638		1,223,225
自己資本*	907,597	870,853		907,597	941,109		929,525
EPS(円)	30.25	30.04		10.63	19.58		67.90
BPS(円)	661.84	624.25		661.84	674.26		665.98
ROE(年換算)	9.2%	9.7%		6.4%	11.7%		10.8%

* 自己資本=株主資本+評価・換算差額等

ROE(年換算)	1H	2Q
大和証券	19.1 %	17.8 %
大和証券SMBC (連結)	3.9 %	-

2007年度 中間配当
中間配当 12円
配当性向 39.7 %

連結収益の内訳

(単位:百万円)	FY2007	FY2006	対'06.1H 増減率	FY2007		対'07.1Q 増減率	FY2006 累計
	1H	1H		2Q	1Q		
受入手数料合計	154,438	134,968	14.4%	74,562	79,875	-6.7%	306,736
エクイティ	47,459	46,521	2.0%	22,930	24,528	-6.5%	98,986
フィクスト・インカム(債券)	1,171	1,501	-22.0%	609	562	8.3%	2,666
アセット・マネジメント	71,007	48,470	46.5%	33,826	37,181	-9.0%	106,906
インベストメント・バンキング	22,175	26,792	-17.2%	10,798	11,376	-5.1%	74,985
その他	12,624	11,682	8.1%	6,397	6,227	2.7%	23,190
トレーディング損益合計	71,190	73,068	-2.6%	24,440	46,749	-47.7%	157,332
株券等トレーディング損益	15,230	12,226	24.6%	-4,150	19,380	-	31,288
債券・為替等トレーディング損益	55,960	60,841	-8.0%	28,591	27,368	4.5%	126,044
金融収支	10,082	9,725	3.7%	3,551	6,530	-45.6%	19,207



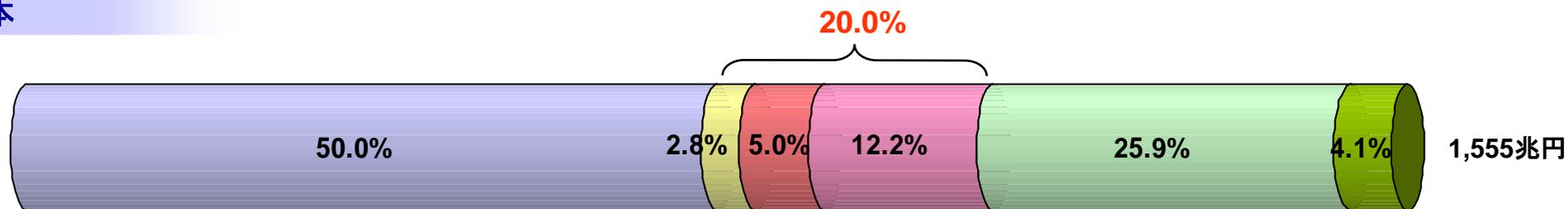
2007年度下期の方針



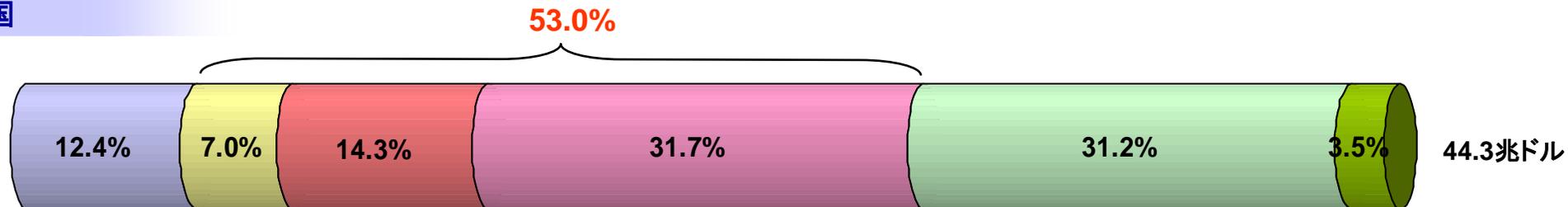
個人金融資産の日米比較

家計金融資産の構成比(2007年6月末)

日本



米国



出所：日本銀行調査統計局

グループ中期経営計画

2008年度に向けての経営目標

連結経常利益 : 3,500億円以上

連結ROE : 15%以上

* 連結経常利益 過去最高値 3,391億円(1990/3)

リテール

経常利益: 1,300億円以上

大和証券顧客資産残高:
45兆円以上

ホールセール

連結経常利益: 1,900億円以上

リーグテーブルNo.1

アセット・マネジメント

経常利益: 300億円以上

株式投資信託残高: 14兆円以上
投資顧問残高: 5兆円以上

リテール 中期経営計画の進捗状況

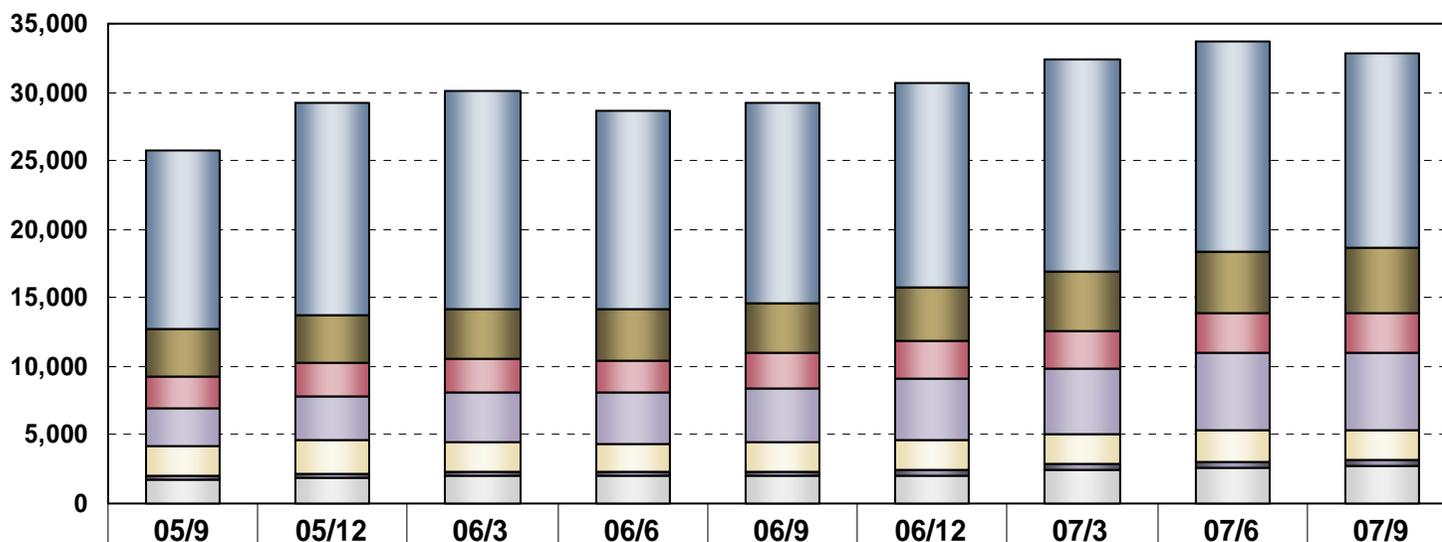
大和証券 数値目標の進捗状況

■ 投資信託代理事務手数料	08/3	月間 48億円	(07/9	月間 37.2億円)
> 株式型投資信託残高	08/3末	3.9兆円	(07/9末	3.2兆円)
> 債券型投資信託残高	08/3末	3.1兆円	(07/9末	2.2兆円)
■ ダイワSMA 契約資産残高	08/3末	5,000億円	(07/9末	2,511億円)
■ 「ダイワ・ダイレクト」コース信用建残高	08/3末	5,000億円	(07/9末	1,514億円)
■ 個人向け国債残高	08/3末	2.5兆円	(07/9末	1.6兆円)
■ 外貨建債券残高	08/3末	3.0兆円	(07/9末	2.8兆円)
■ 年金保険残高	08/3末	8,000億円	(07/9末	4,942億円)

リテール 預り資産の状況

大和証券顧客資産

(10億円)

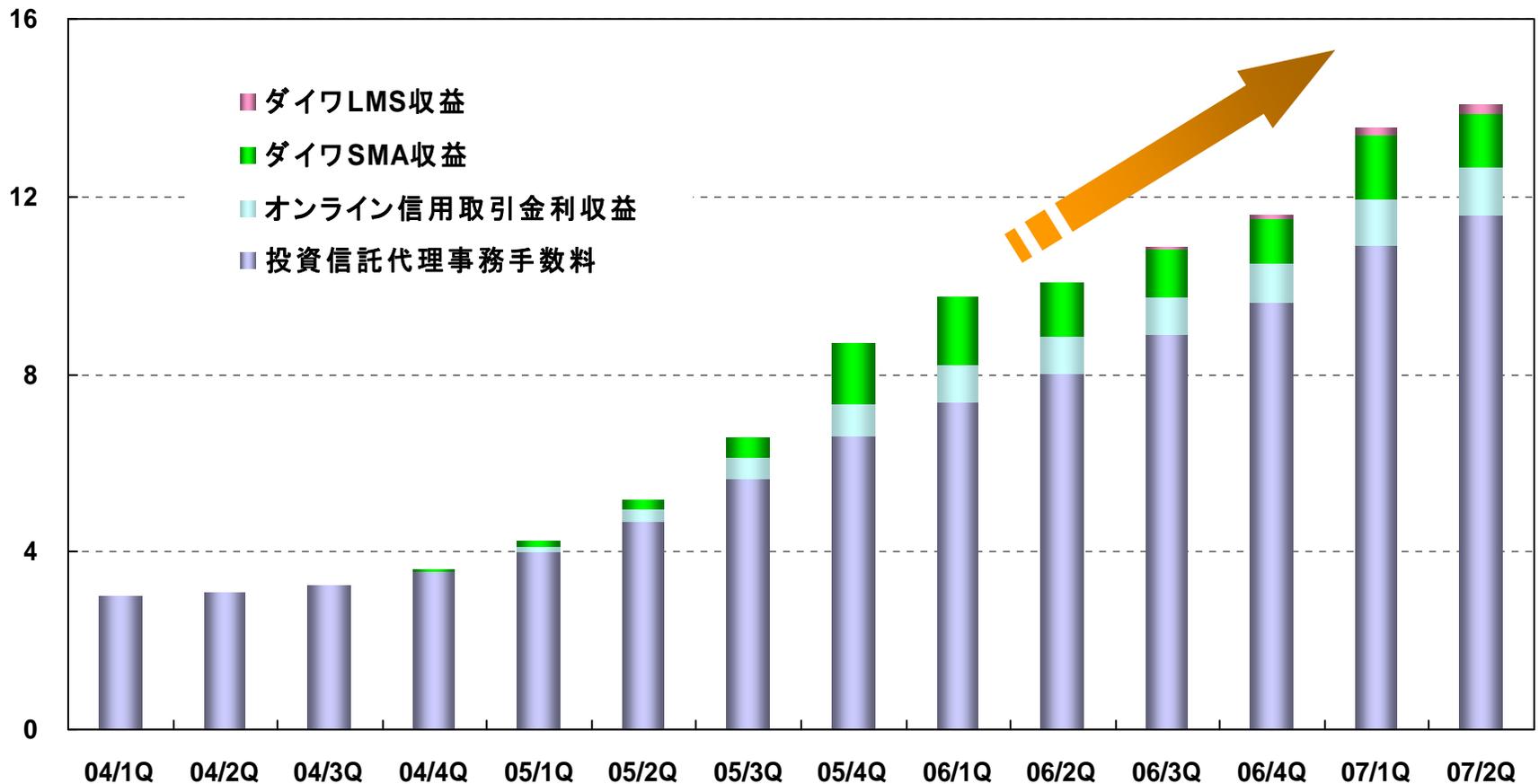


* 「その他」には大和証券SMBC預りの大和証券の顧客資産を含む。

安定収益は引き続き順調に拡大

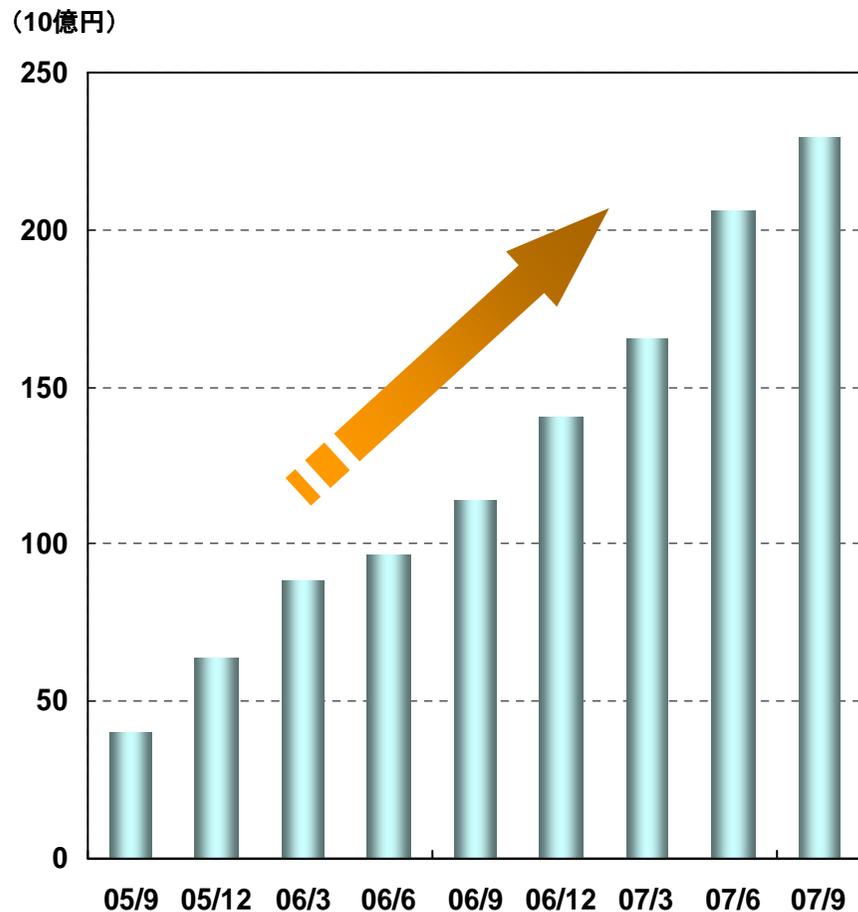
大和証券 安定収益

(10億円)

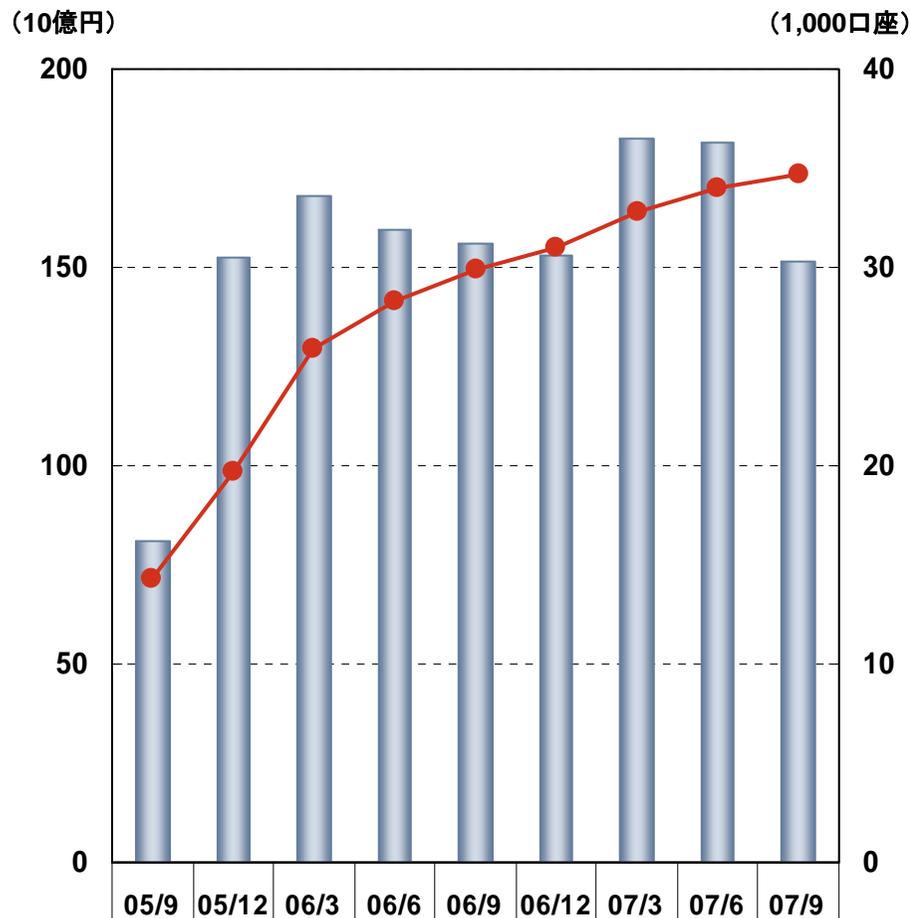


リテール オンラインの状況

「ダイワ・ダイレクト」コース
株式投資信託残高



「ダイワ・ダイレクト」コース 信用取引サービス
口座数・信用建残高

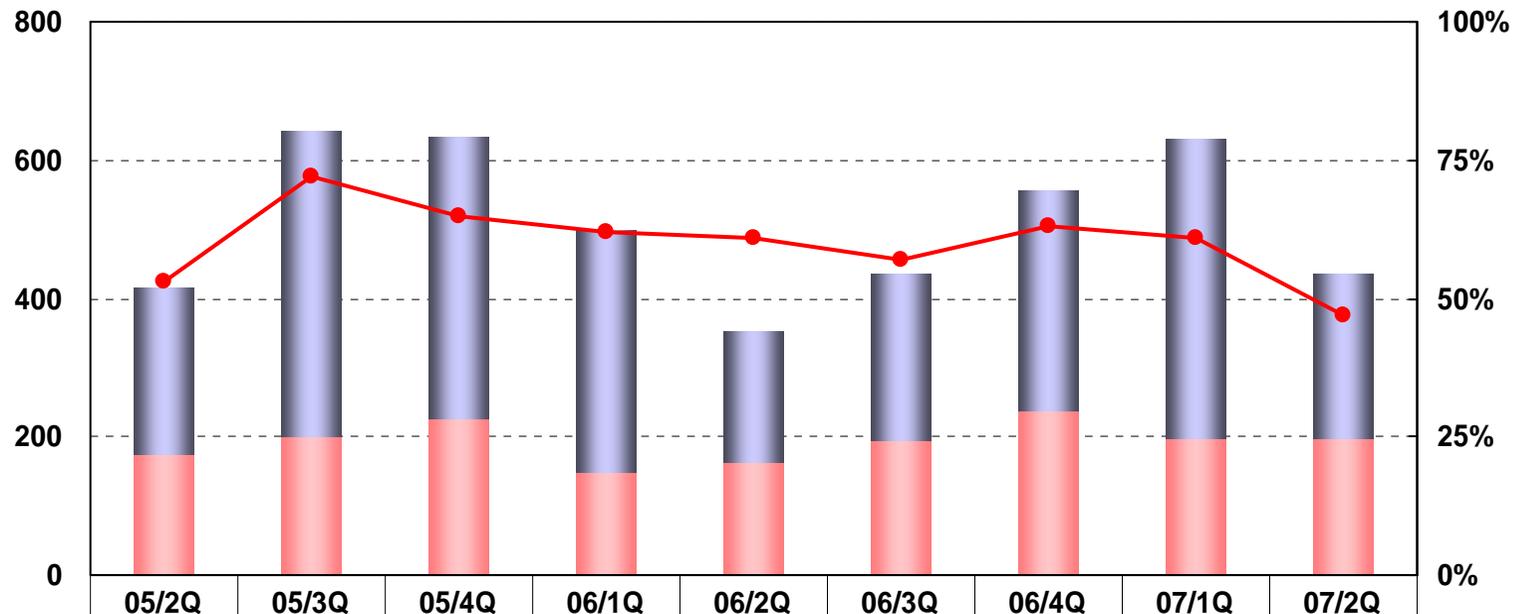


信用建残高 (左軸)	81.2	152.3	168.0	159.7	156.2	152.9	182.4	181.5	151.4
口座数 (右軸)	14.3	19.7	25.9	28.3	29.9	31.0	32.8	34.0	34.7

リテール 株式投資信託の販売状況

大和証券 株式投資信託販売額と純増率

(10億円)



	05/2Q	05/3Q	05/4Q	06/1Q	06/2Q	06/3Q	06/4Q	07/1Q	07/2Q
株式型投資信託(左軸)	241.8	441.7	405.2	350.0	187.3	238.8	320.1	431.4	237.4
債券型投資信託(左軸)	173.9	199.5	227.5	148.4	164.7	196.2	237.2	198.9	197.6
株式投資信託合計(左軸)	415.7	641.3	632.7	498.4	352.1	435.0	557.4	630.3	435.0

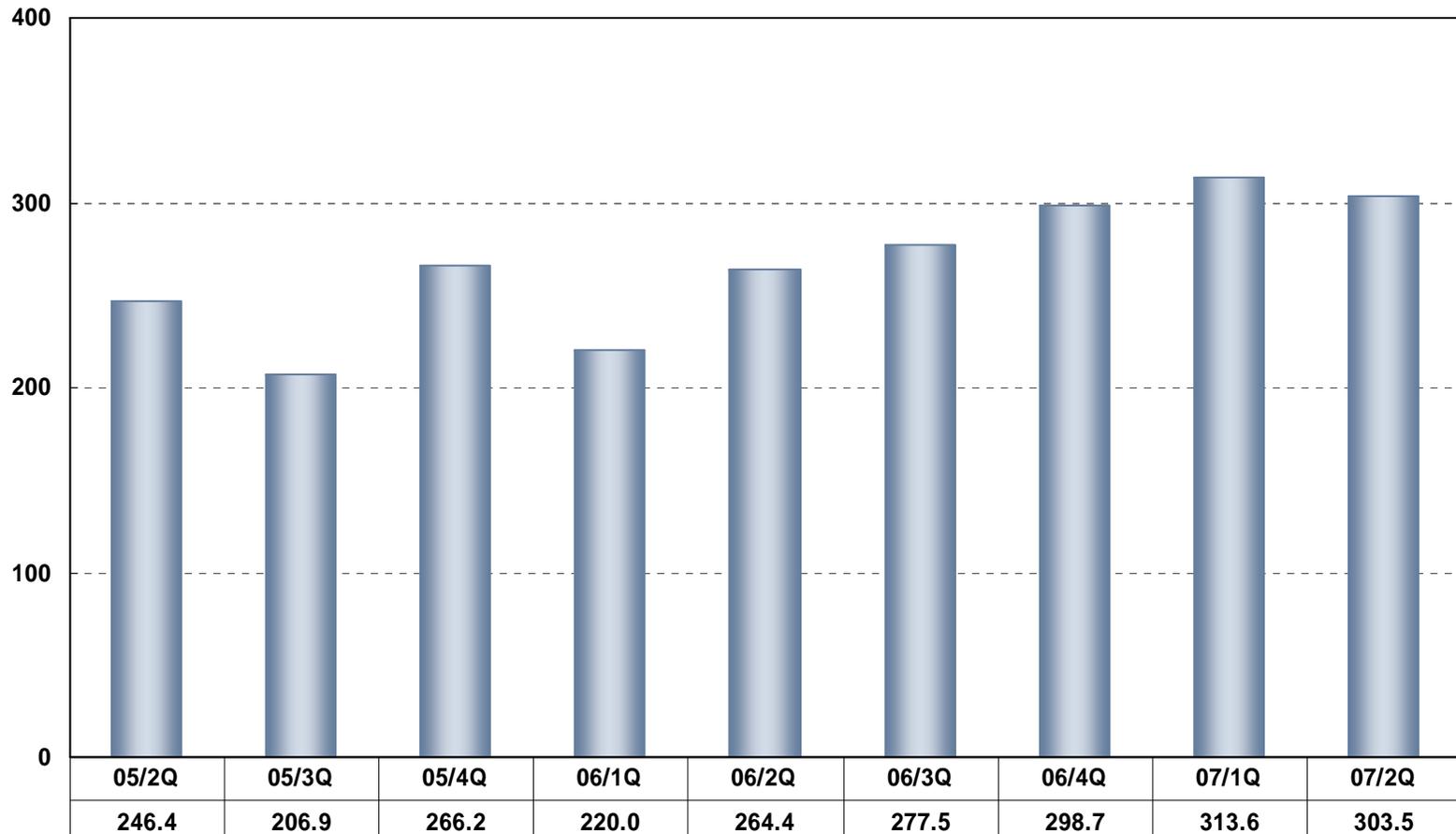
■ 債券型投資信託(左軸) ■ 株式型投資信託(左軸) ● 純増率(右軸)

* 純増率(%) = (販売額 - 売却額) / 販売額 × 100

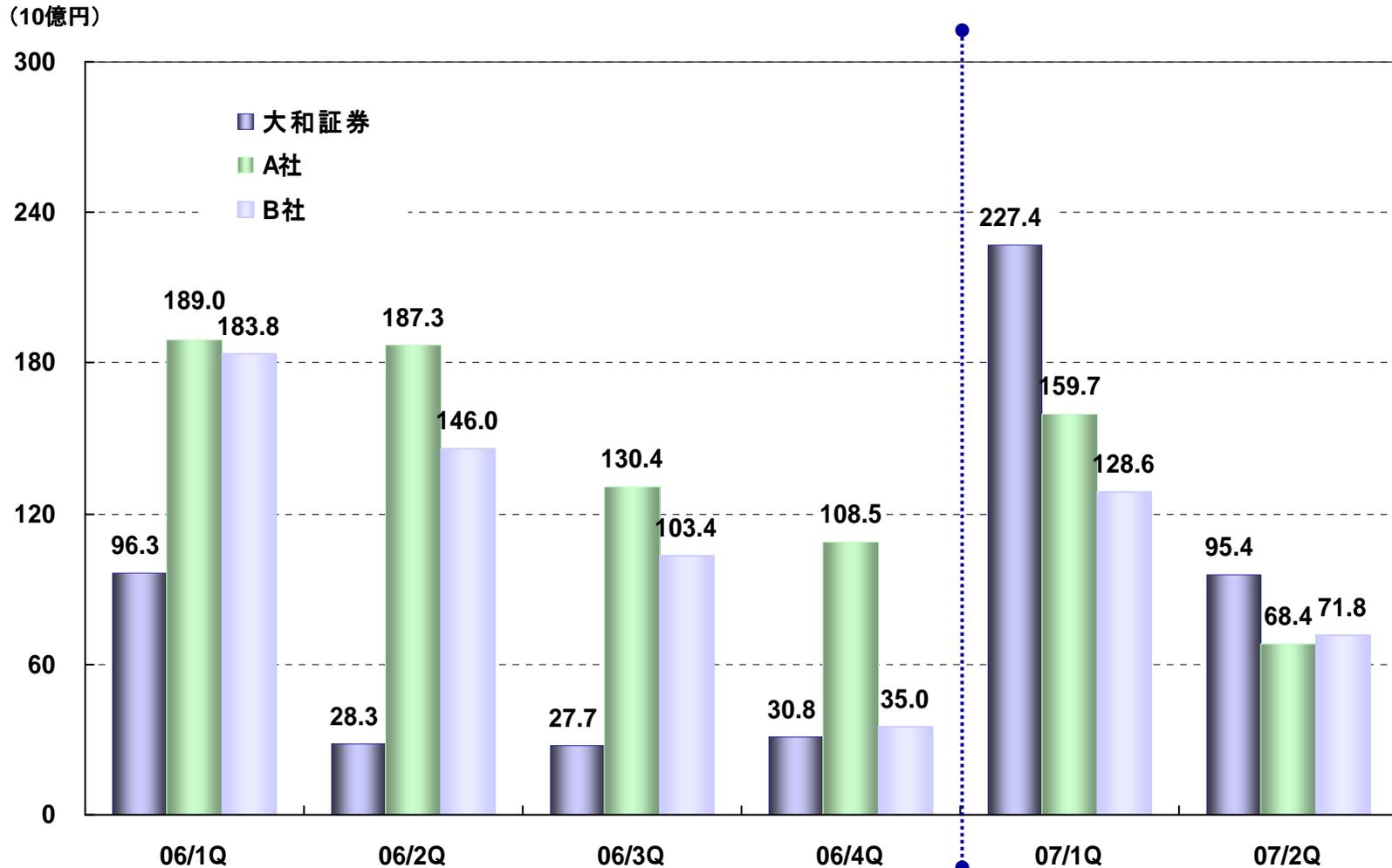
リテール 外貨建債券の販売状況

外貨建債券販売額の推移

(10億円)



個人向け国債販売額の他社比較



* 他社の販売額は決算用資料等の開示情報より抜粋

リテール 金融商品取引法への対応

金融商品取引法の施行 = 顧客の信頼を高めるチャンス

金商法の投資家保護
||
ミニмумスタンダード

法令順守は最低限の条件
従来からのスタンスに変更なし

+

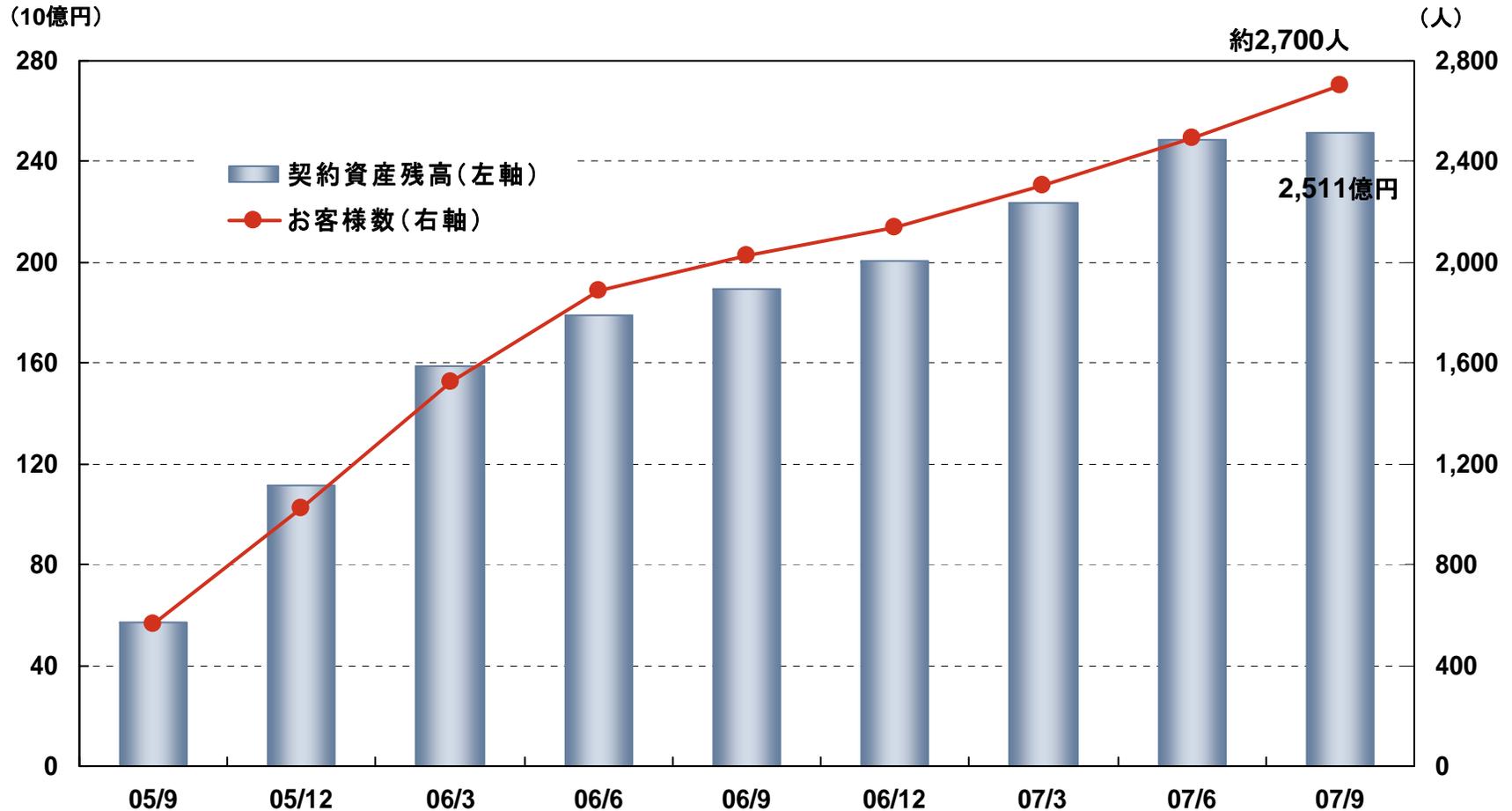
これまで以上に...

- 顧客カード再整備
- 投資方針の再確認
- システム対応 等

預り資産の拡大
収益の拡大

リテール ダイワSMA (Separately Managed Account)

ダイワSMA 契約資産残高・お客様数



(ご参考) 2007年10月31日現在: 契約資産残高 2,520億円、お客様数 約2,730人

リテール 「ダイワファンドラップ」サービス開始

ファンドラップにおいても業界No.1の地位獲得へ

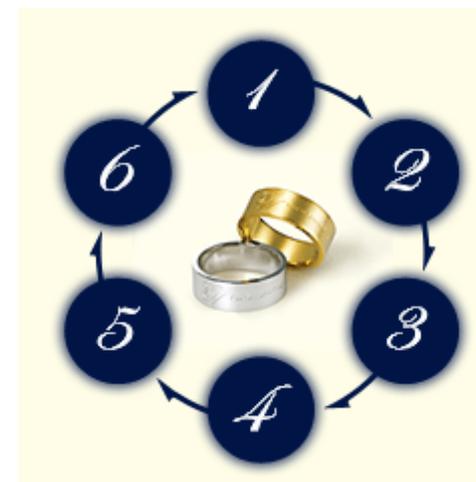
ダイワ ファンドラップ
あなたにあった資産運用をプロと二人三脚で。



- 契約金額 500万円以上(1万円単位)
- 契約期間 1年ごとの自動更新
- 投資対象 ファンドラップ専用口座にてダイワファンドラップ専用ファンドに投資
- 手数料 契約資産に応じたフィー体系

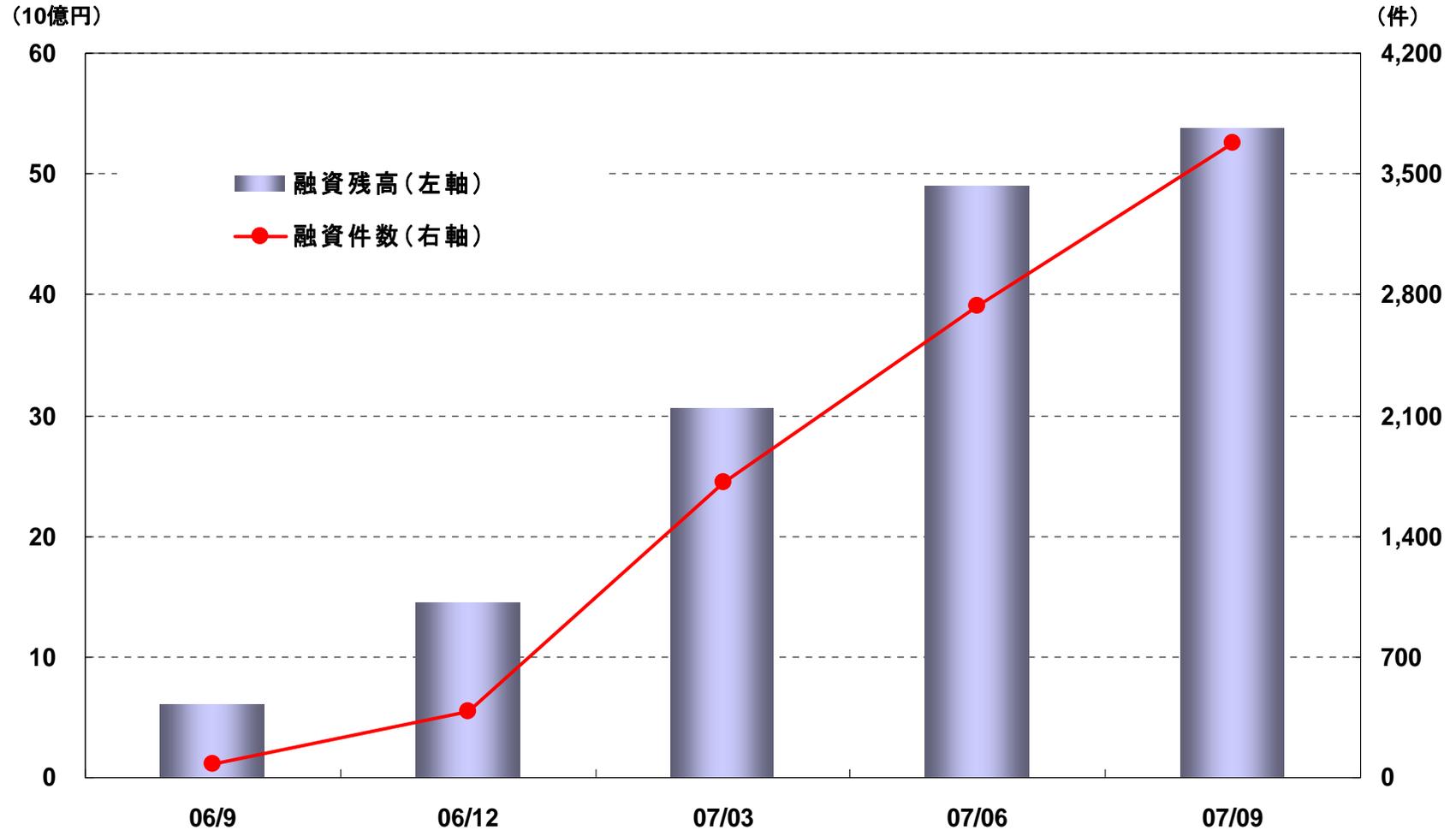
「ダイワファンドラップ」の仕組み

- 1 投資方針の確認
 - 「ヒアリングシート」により、投資方針、リスクに関する考え等を確認
- 2 運用スタイルの提案
 - 「ヒアリングシート」の回答をもとに最適な運用スタイルを提案
- 3 投資一任契約の締結
- 4 投資一任契約に基づいた運用
- 5 運用報告とフォロー・アップの充実
 - 「ダイワファンドラップ運用報告書」を3カ月ごとに交付
- 6 投資方針の見直し
 - 運用スタイルの変更、増減額が可能
 - お客さま専用Webサイトにて運用状況や取引経過の確認も可能



リテール ダイワLMS(Loan Management Service)

ダイワLMS 融資残高・件数



ホールセール 主要リーグテーブル

大和証券SMBC 2007年度上半期 主幹事リーグテーブル

	デット総合		エクイティ総合		
		普通社債+ 財投機関債		新規公開	株式公募・売出し
1位	みずほ	みずほ	野村	野村	野村
	19.5%	24.3%	39.2%	37.4%	65.8%
2位	大和証券SMBC	大和証券SMBC	日興シティ	大和証券SMBC	大和証券SMBC
	15.3%	18.5%	24.0%	35.4%	14.2%
3位	野村	野村	大和証券SMBC	新光	日興シティ
	13.4%	17.8%	12.9%	9.5%	10.8%
4位	三菱UFJ	三菱UFJ	みずほ	三菱UFJ	モルガン・スタンレー
	12.4%	17.2%	5.8%	8.6%	4.8%
5位	日興シティ	日興シティ	三菱UFJ	東海東京	みずほ
	9.2%	8.0%	5.7%	2.9%	1.9%

M&Aランキング(1-9月)

M&A	
公表案件/ 取引金額ベース	公表案件/ 取引件数ベース
野村	野村
シティグループ	大和証券SMBC
GCA	MUFG
みずほFG	シティグループ
MUFG	みずほFG
6位 大和証券SMBC	ゴールドマン・サックス 他

出所: 大和証券SMBC (ABSは日経公社債情報) 2007年4月~2007年9月

デット総合(社債+財投機関債+円建外債+ABS)は条件決定日ベース。エクイティ総合(既公開株式+新規公開株式+国内CB+海外株式+海外CB+第三者割当型スキーム+REIT)は払込日ベース。ただし、新規公開は公開日ベース。共同主幹事については、引受金額に応じて按分。リーグテーブルでの獲得金額をパーセンテージで表記。

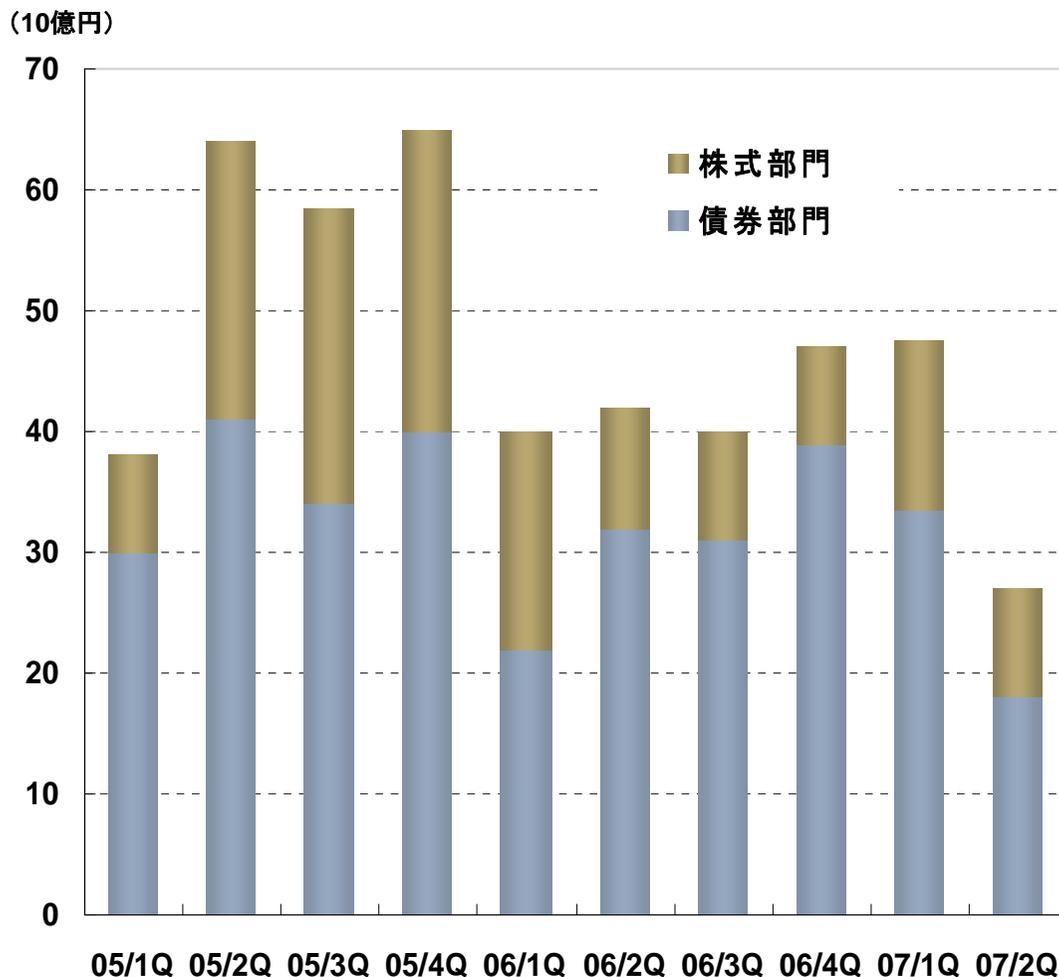
出所: トムソンファイナンシャル 2007年1月~9月
「日本企業が関わるアドバイザーランキング(AD19)」

シンボリックディール

- エクイティ: 石油資源開発売出し共同主幹事、チャイナ・ボーターIPO、キトーIPO
- デット: 日本たばこ産業普通社債共同主幹事、タイ石油公社サムライ債共同主幹事
- M&A: 三越・伊勢丹の経営統合、三洋信販TOB、SMBCによるOMCカード買収
米Sagent Advisors Inc.: SRIスポーツによる米クリーブランドゴルフ買収(10月)
- ストラクチャードファイナンス: 財務省の財政融資資金貸付金の証券化に係るアレンジャー兼事務主幹事に選定(10月)

ホールセール トレーディングビジネスの強化

グループ連結 株式・債券部門収益(管理会計ベース*)



* トレーディング損益+金融収支

トレーディングにおける重要課題

- 収益源の多様化
(グローバル、オルタナティブ、デリバティブ)
- リスクマネジメントの強化

株式部門の主な重点分野

- 執行インフラの強化
- グローバルカバレッジ体制の構築
- 外国株からの収益拡大
- プロップ運用のグローバル展開

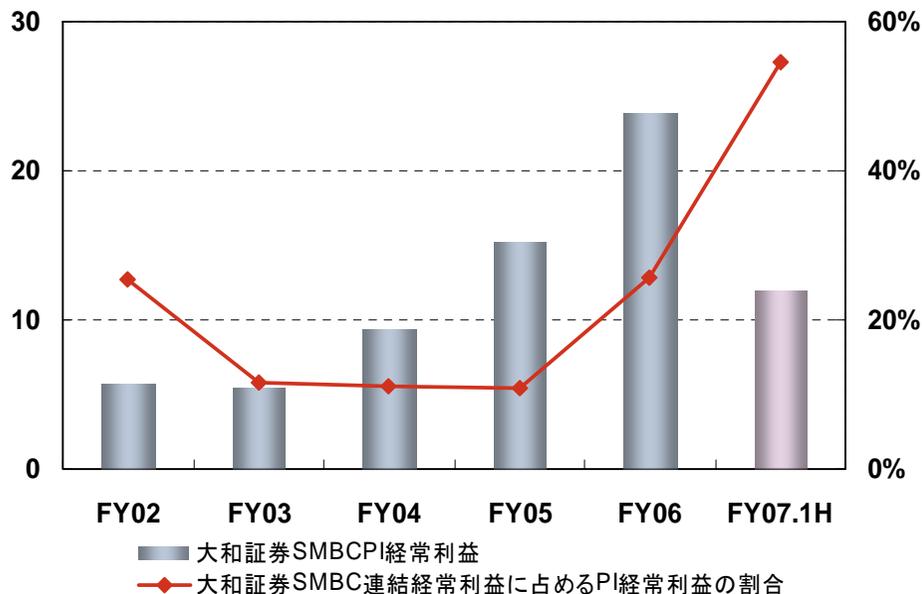
債券(金融市場)部門の主な重点分野

- 仕組債販売・デリバティブ取引の拡大
- デリバティブ・トレーディング機能の強化
- 海外ビジネスの強化

投資 大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ

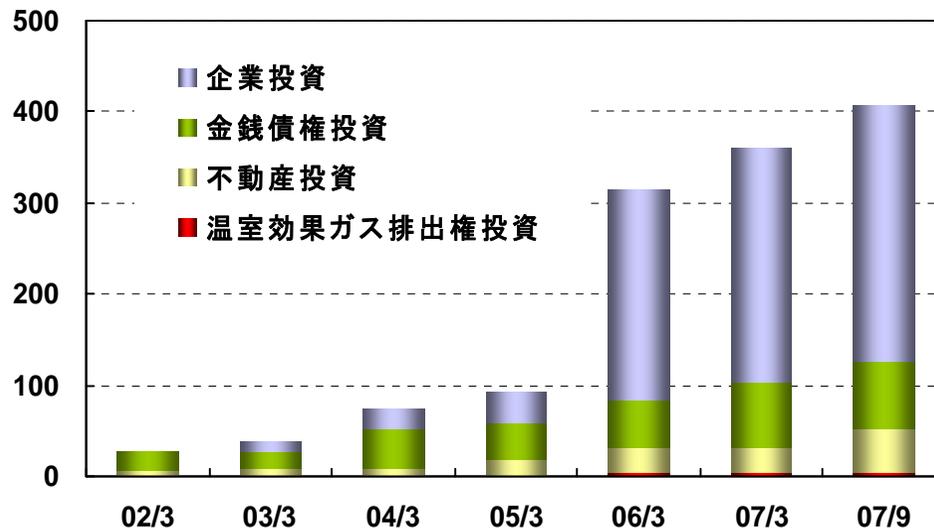
経常利益

(10億円)



投資残高

(10億円)



■ トピックス

- ▶ 丸善株式の一部を大日本印刷へ譲渡
- ▶ 北海道中小企業チャレンジファンド組成
- ▶ HMVジャパン、HMV Retail Limitedの全株式を取得
- ▶ 旭川グランドホテルの全株式を取得

07.9月末現在 (07.6月末比)

投資残高合計:	約 4,070億円 (+370億円)
企業投資:	約 2,810億円 (+200億円)
金銭債権投資:	約 740億円 (+80億円)
不動産投資:	約 480億円 (+100億円)
温室効果ガス排出権投資:	約 40億円 (▲10億円)

ホールセール・投資 アジアビジネスの強化・拡大

5年後の目標イメージ： 3つの「1,000」を目指す

アジア関連収益

現状

2006年度のアジア・オセアニアにおける収益：
約124億円

5年後

アジア関連収益：
年間1,000億円規模

アジアにおける人員数

現状

アジア拠点の人員数(駐在員+現地社員)：
515名(07/9末)

5年後

人員：
1,000名体制

アジアにおける投資額

現状

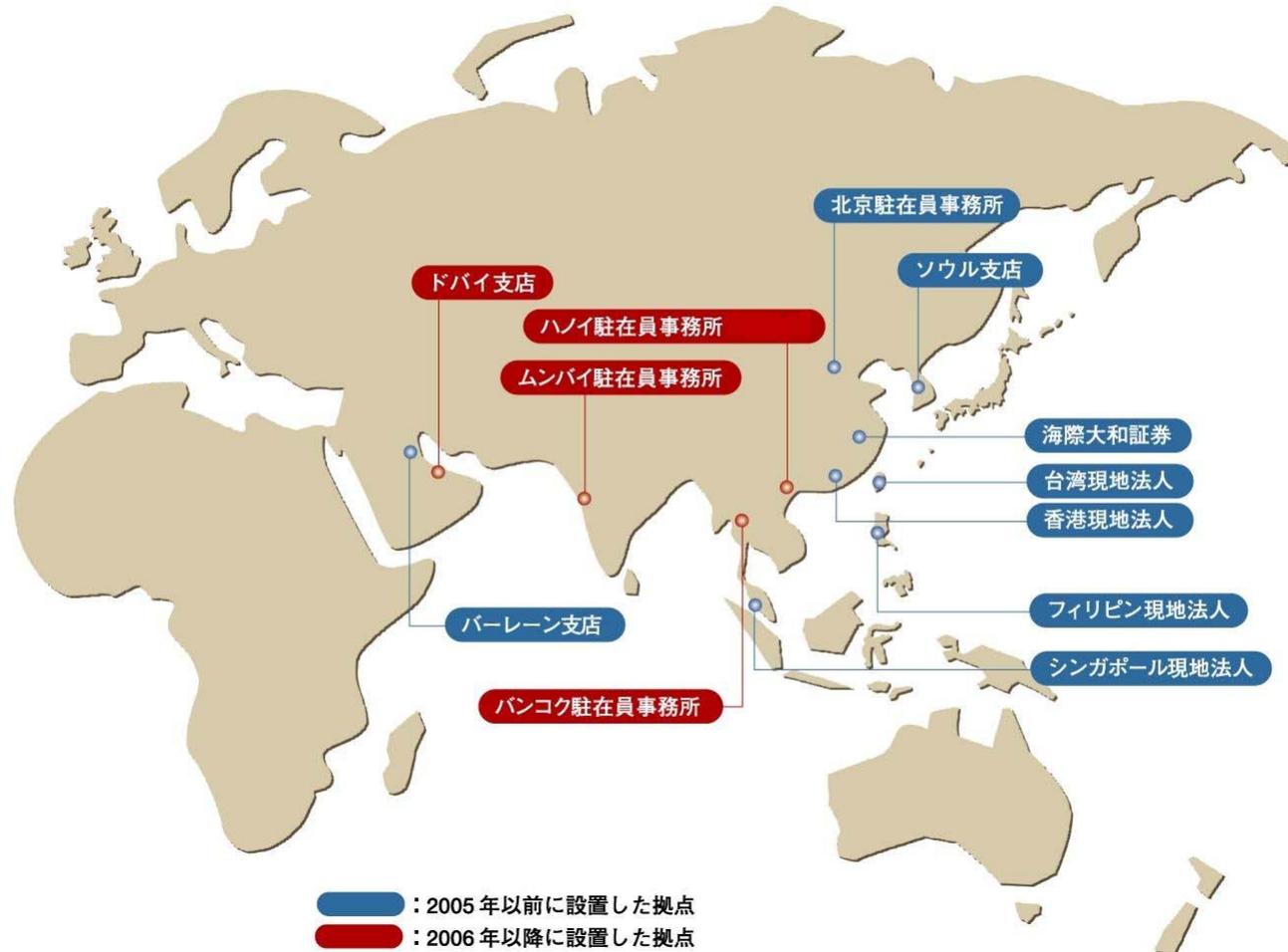
EMP Daiwa Capital Asia Ltd.への出資

5年後

PE・PEファンド等への投資：
1,000億円規模

ホールセール・投資 アジア地域のネットワーク

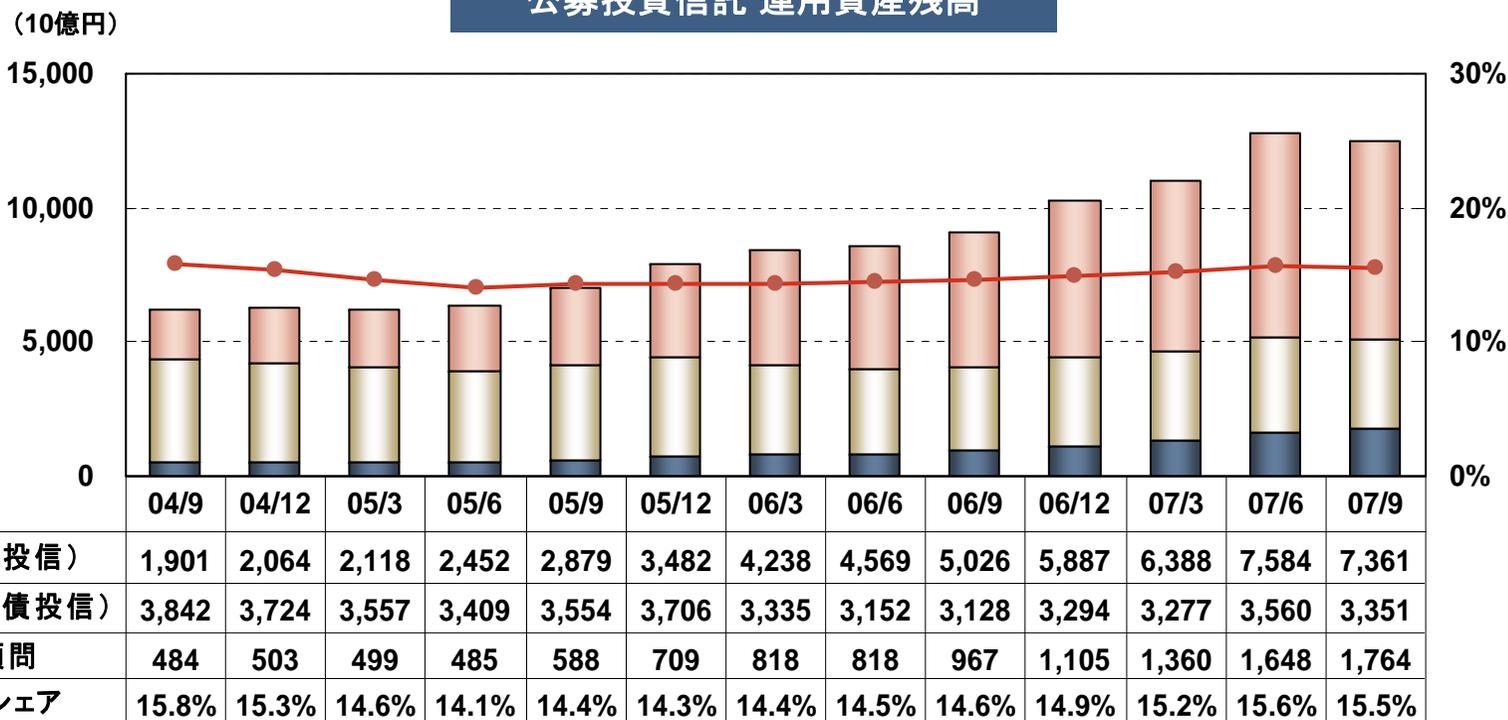
大和証券SMBC アジア地域におけるネットワーク拡大



アセットマネジメント 公募投資信託 残高推移



公募投資信託 運用資産残高

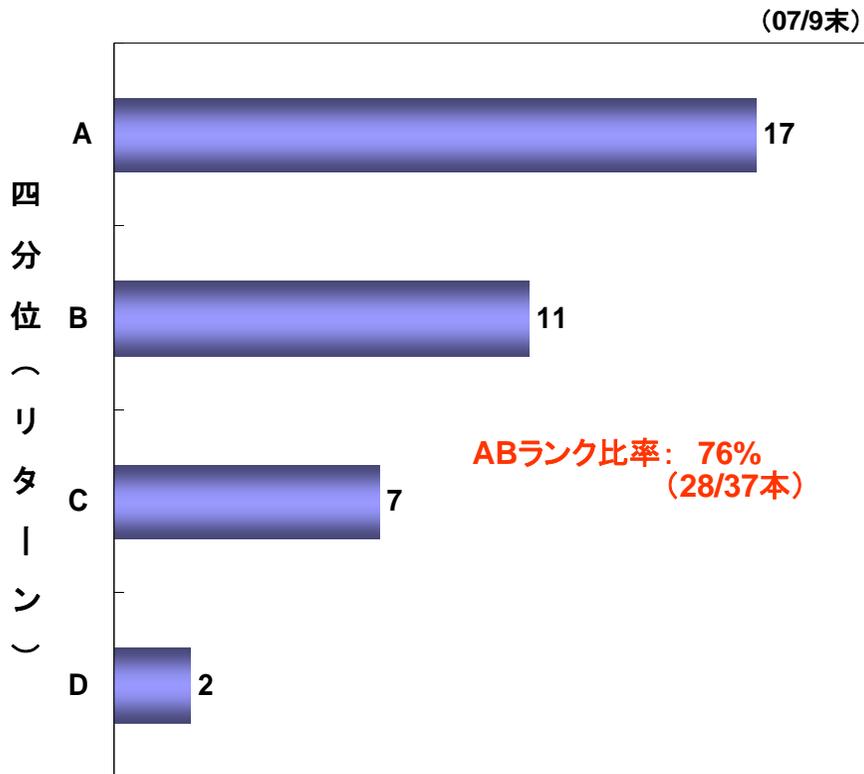


* 大和投資信託+大和住銀投信投資顧問

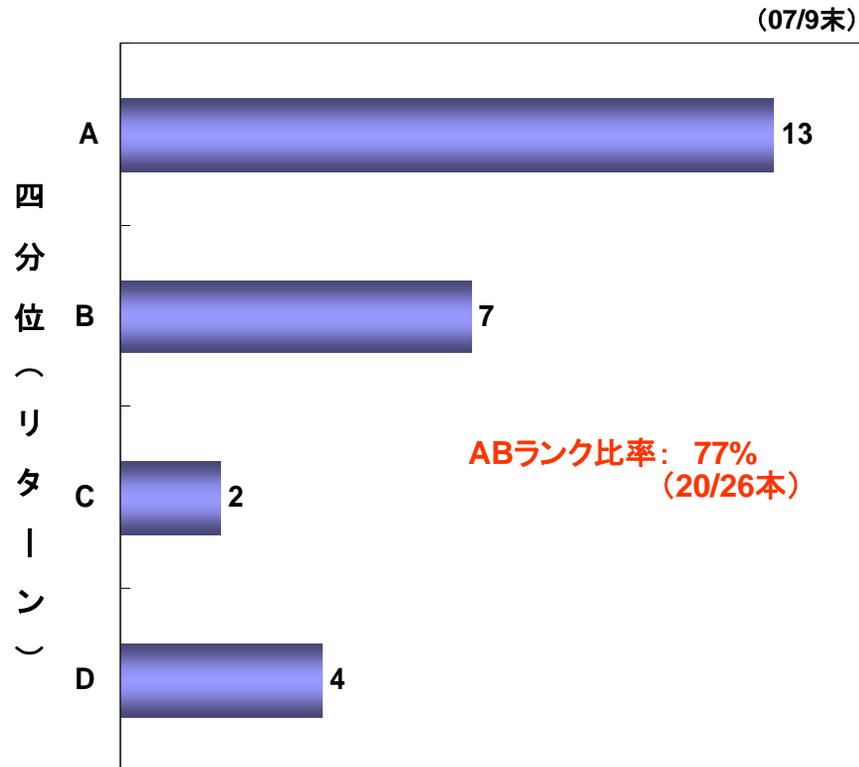
投資顧問 契約資産残高

(10億円)	04/9	04/12	05/3	05/6	05/9	05/12	06/3	06/6	06/9	06/12	07/3	07/6	07/9
大和住銀投信投資顧問	2,954	3,194	3,158	3,201	3,715	4,106	4,070	3,913	4,106	4,292	4,374	4,555	4,220

国内株式アクティブファンド(期間:1年)



国内株式アクティブファンド(期間:3年)



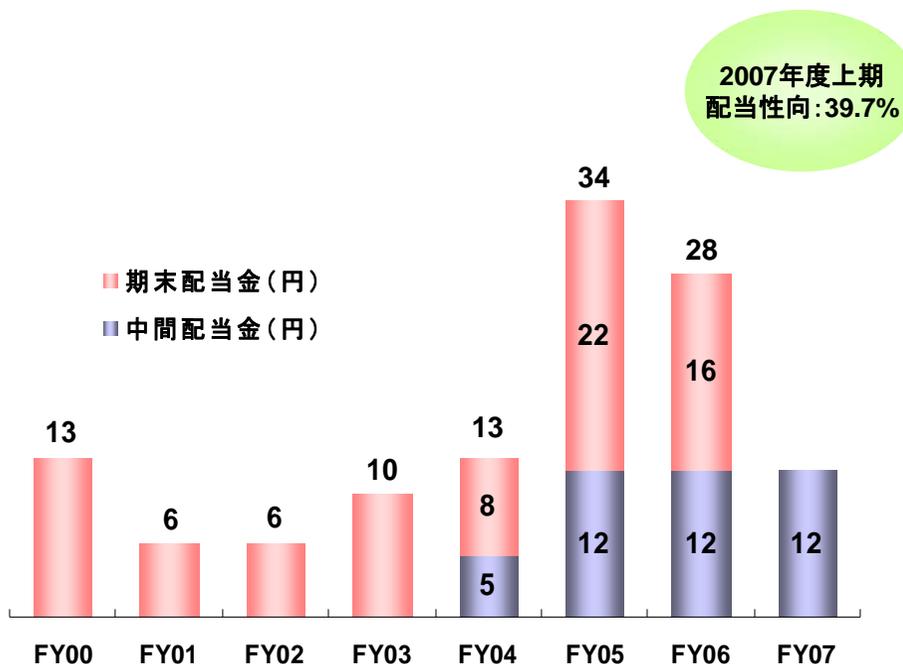
- * 大和ファンド・コンサルティングの評価分類(国内株式型ブレンド、グロース、バリュー、大型、中小型、組入比率変動型、テーマ型)を使用(ただし、テーマ型のうち大和投信が運用する地域ファンドは除く)
- * 各評価分類ごとに各ファンドをA~Dまでの四分位にランク付けし、大和投信の運用ファンド本数を記載

資本政策

配当性向30%を基準

⇒ 資本政策と照らし合わせ、状況に応じてより積極的な株主還元を実施

大和証券グループ本社 配当金



※ 2004年度に中間配当制度を導入

自己株式取得について

- 株式総数 : 2,500万株
- 取得価額総額 : 273億円
- 取得期間 : 2007年8月21日～2007年9月20日
- 取得目的 :
 - 配当方針に沿った追加的な株主還元
 - 市場に対するアナウンスメント効果
 - 自己株式の金庫株としての活用 (M&Aやストック・オプション等)

<<ご参考: 前回の自己株式取得>>

- 株式総数 : 1,000万株
- 取得価額の総額 : 137億円
- 取得期間 : 2006年1月31日～2006年2月17日



大和証券グループ本社 IR室

TEL: 03-3243-3841 FAX: 03-3242-0955

E-mail: ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

URL: <http://www.daiwa-grp.jp/ir/>